

教育政策特集号

世界の
教育を
実現します！

港区議会議員

さいき 陽平 32歳
慶應義塾大学
法学部政治学科 卒業

どんな家庭に生まれた子どもも、
自分の夢に向かって努力できる
公教育を実現させます。



総合型選抜に特化した大学受験塾を
大学一年時に起業し、
現在は全国26校舎に展開中。

12年間の
進学実績

慶應義塾大学 1251名
旧帝国大 104名
東京大学 51名 など

教育事業を通じて培った経験を、
港区の公教育改革に全力で活かしていきます！



地域のご意見・ご要望をお寄せください。必ずお返しします！

発行：オールみなと（港区六本木3-7-1）
TEL: 03-3578-2948 Mobile: 070-9049-1496
MAIL: info@saikiyohei.com

さいき陽平
公式ウェブサイト▶▶
各種SNSのフォローもこちらから！



世界と日本の教育をリードする港区

港区に暮らす子どもたちが健やかに自分らしく成長できるように、誰一人取り残すことなく、支援していきます。
また、港区の挑戦を“港区モデル”として日本中そして世界へと広げることで、教育改革をリードしていきます。



港区の教育の課題

港区の皆様と一緒につくる、“未来の教育”

区立学校では進路・受験が不安

現在、港区に住む子どもたちの3割強しか公立の中学校へは通っておらず、ほとんどの子どもたちは私立学校で学んでいます。私立学校への進学は家計の教育費負担の大きな要因の一つであり、解決を図っていくことが急務です。



1. 高校・大学進学まで見据えた進路サポートする区立小・中学校

区立小・中学校の魅力的な学びを分かりやすくお伝えし、高校・大学受験に向けた公的支援も充実することで、公立学校に安心して進学できる環境をつくります。

- ① 民間企業と連携した放課後学習塾を設置し、**中学受験・高校受験対策の公的支援を充実させます！**
- ② 公立中学校・都立高校への進学を検討する皆様が**休日に気軽に相談できる場**をつくります
- ③ **区立中高一貫校を実現させます！**



皆で同時に黒板に向かう画一的な学び方

一人ひとりにあった学びの速度や学び方は異なることが学術研究や政府の検討で指摘されています。そのため、一斉・一律の学びは、一人ひとりの個性を十分に伸ばせず、不登校をはじめとした課題の発生にもつながっています。



2. 一人ひとりの個性に合わせた学びの実現

子どもたち一人ひとりが、自らにとって最適な学ぶ速度や学び方、興味・関心に合わせた「**学びの選択肢**」を選べるような教育環境の整備を目指します！

- ① 特色ある学校(**プログラミング教育・理数教育先進校・イェナプランスクール**など)を増やします
- ② **デジタルAIドリルや教育ダッシュボードの整備**により、一人ひとりに合わせた教育を推進します
- ③ 学校に行きづらくなってしまった小中学生の**対面・オンラインでの居場所を整備**します



学校の中に閉じた学び

学校での学びは、教科書と黒板とドリルが中心でした。少しずつ地域と連携した、探究的な学びが増えていたとはいえ、まだまだカリキュラムの中心を占めるまでには至ってはいません。そのため、学ぶ意味を見失っている子どももいる状況です。



3. 地域と連携し、世界と繋がって、生き生きとした学びを充実

港区にある数多くの企業や大使館などと連携して、実社会と結びついた、子どもたちの人生を豊かにする学びの実現を目指します！

- ① **大使館と連携したホームステイ(まちなか留学)**等や**英会話アプリ**の導入により、国際教育を推進します
- ② 企業と連携した**プログラミング・デザイン教育**の推進により、課題解決能力を育成します
- ③ 学校と地域をつなぐ**コーディネーターの配置**や、**講師謝金の予算化**で、学校負担を減らします



忙しすぎる教員の働き方

日本の先生方の業務時間は先進国の中で最長です。このような状況でも日本の教育はPISAでトップクラスの成績を残しています。つまり、素晴らしい技能を持つ先生方の働く環境を改善すれば、さらに教育を充実させることができます。



4. 子どもたちと意思きり向き合える、世界最高の先生方

無駄な業務を効率化することで、子どもたちと向き合える時間を増やすと共に、先生方が自己研鑽を積んだり、お互いに対話できる時間を増やします！

- ① 教育委員会と学校に**働き方改革コーディネーター**を配置し、**ITも活用**しながら、業務を見直します
- ② **区費講師、スクールサポートスタッフ、学習支援員などの人員強化**で、より手厚い学校運営体制に変革させます！
- ③ 戦略的に「**教育行政のプロ**」を採用する等、学校に伴走する教育委員会の機能強化を図ります



1 高校・大学進学まで見据えた 進路サポートする区立小・中学校

区立小・中学校の魅力的な学びを分かりやすくお伝えし、
高校・大学受験に向けた公的支援も充実することで、公立学校に安心して進学できる環境をつくります。

1-① 民間企業と連携した放課後学習塾を設置し、 中学受験・高校受験対策の公的支援を充実させます！

民間企業と連携し、区立小・中学校に通う生徒を対象とした受験のための「学校内塾」を設置します。
学校内塾では、少人数指導やICTの活用などにより高い教育効果をあげられるよう工夫します。

先行事例はある！

東京都足立区や、大阪市の北区・都島区・西区などは民間事業者と連携し、
中学生を対象とした放課後学習塾事業を行っています。一人ひとりに合わせた丁寧な指導を受けられると好評のようです。（大阪市HP）また、神奈川県箱根町では、公設民営塾（土曜塾）を城南進学研究社と共に
運営しており、ICTとアクティブラーニングを活用した先進的な学習法によって、受講生の31名全員が志望校
に合格しているようです。（城南進学研究社記事）

議会で「学校内塾」を 提案しました！

少人数授業やハイレベル受験指導を 放課後の学校で！

先日六本木中学校で実施されている「放課後スタディ」を見学しました。定期試験対策の「保健」の暗記問題に取り組んでいる生徒、
学校で習った数学の証明問題を友人と教えあっている生徒、ハイレ
ベルな高校受験の対策をしている生徒まで本当に様々な学習ニーズ
があることを痛感しました。それに少人数の先生方で対応している様
子も拝見しました。学校の制度の関係で、17時で終了でした。民
間学習塾と連携することで、生徒の多様なニーズに応えることが可能
になると確信しました。議会でも導入を提案し、その実現に向けて
全力で取り組んでいます。



六本木中学校の
「放課後スタディ」を視察

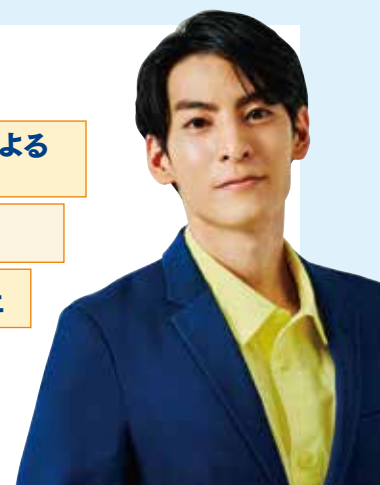
「学校内塾」のメリット → 同じサービスを安価に提供できる！



今後、区立中学校に充実を希望すること

39.8%	1位	習熟度別授業、少人数指導 などによる 基礎学力や活用力の習得・向上
33.7%	2位	教員の資質・指導力の向上
33.1%	3位	受験対策・進路指導の充実/英語能力の向上
33.1%	3位	外国人児童が多い環境を活かすなどの国際理解教育の充実
22.2%	5位	人権教育・道徳教育・ボランティア活動の充実などによる豊かな心の育成

出典：港区「港区学校教育推進計画策定に向けたアンケート調査報告書」より一部抜粋



1-② 公立中学校・都立高校への進学を検討する皆様が 休日に気軽に相談できる場をつくります

お子様の中学校進学を見据えて、私立か公立か、お悩みの保護者の皆様もたくさんいらっしゃる
と思います。しかし、お子様の個性や家計の状況などを踏まえて、総合的に相談できる場は多くは
ないのが現状です。区立中学進学後の進路をどう設計したらいいのかというのか不安があるという
声も沢山伺ってきました。そこで、キャリアカウンセラーやファイナンシャルプランナーなど、進路相
談や家計のプロと連携し、保護者の皆様や児童・生徒の皆様が相談できる場を整備します。その際、
相談のハードルが高くなりすぎないように留意し、カフェのような雰囲気でも気軽に相談できる場にす
ることを目指します。

1-③ 区立中高一貫校を実現させます！

義務教育（小中学校）の運営は市区町村、高校の運営は都道府県というこれまで行政の慣習から、
中高一貫校を創設することには難易度があります。公立の高校は原則全て都立高校であり、東京
都が一括して教員採用・研修の仕組みを構築しているからです。港区が中高一貫校を設置するには、
港区が独自に高校の教員を採用する必要があり、難易度が高いことは事実です。しかし、港区で予
育とする保護者の目線に立った時、腰を据えて来たるべき「大学受験」に取り組める中高一貫校
が「公立校」で実現することは、非常に魅力的な教育の選択肢を増やすことに直結します。それが
国際バカロレアのような特色のあるカリキュラムであれば尚更です。必ず、港区に特色ある魅力的な
中高一貫校を実現させます。

先行事例はある！

東京都千代田区では中高一貫校「千代
田九段中等教育学校」を実現させています。私は実際にこの学校を行政視
察として訪れ、校長を始めとする関係者に徹底的にお話を伺いました。そこ
で分かったことは、この学校は当時の千代田区長の強いリーダーシップにより
実現されたことでした。また区立の高校を実現するには、高校の運営を担っ
ている東京都との交渉が欠かせないことも分かりました。教員の人員確保も
大きな課題です。乗り越えるべきハードルをしっかりと理解した「さいき陽平」
だからこそ、港区に中高一貫校を必ず実現させることができます。



都内唯一の公立の中高一貫校を視察

2. 一人ひとりの個性に合わせた学びの実現！

子どもたち一人ひとりが、自らにとって最適な学ぶ速度や学び方、興味・関心に合わせた「学びの選択肢」を選べるような教育環境の整備を目指します！

2-① 特色ある学校（プログラミング教育・理数教育先進校・イエナプランスクールなど）を増やします

- ・プログラミングや理数教育を先導する学校を指定し、現役のエンジニアや大学教授などの専門家による伴走支援の仕組みも整えます。
- ・子どもたち一人ひとりの主体性を重視した教育メソッドであるオランダの「イエナプラン」を取り入れるモデル校を指定します。
- ・グローバル化に対応した教育を教育費の負担なく受けられるよう、公立の国際バカロレア認定校を設立します。
- ・子どもたちに合わせて、特色ある学校への進学を選択できる仕組みを整えることで、子どもたちの個性が花開く教育環境を作ります。

知っていましたか？

現在の制度下の公立学校でも先進的な教育メソッドを取り入れた学校は実現できます。例えば、オランダのイエナプランは広島県福山市立常石ともに学園ですすでに取り入れられており、1年生から3年生・4年生～6年生が共に学ぶ異年齢学級が編成され、ワールドオリエンテーションという教科横断の探究学習が行われています。公立初のイエナプラン教育校に我が子を通わせようと、移住する人も増えているとのこと。

2-② デジタル AI ドリルや教育ダッシュボードの整備により、一人ひとりに合わせた教育を推進します

- ・子どもたちのつまずきポイントを分析し、それぞれの子どもの最も適した問題を出し分けるデジタルAIドリルを全小中学校に導入します。
- ・子どもたちの成長を客観的に把握し、先生方がきめ細やかに児童・生徒に伴走できるよう、教育ダッシュボードを整備します。
- ・デジタル教材を活用した先進的な授業モデル、学校間で学び合う機会などを作り、区内の学校の教育水準を向上します。

知っていましたか？

経済産業省「未来の教室」実証事業では、千代田区麹町中学校でAIドリルが導入され、教科書の学習指導計画の1/2の時間で知識の定着が可能になりました。現在では、東京都でも世田谷区や足立区といった自治体で、全小中学校でのデジタルAIドリルの導入が進んでいます。



2-③ 学校に行きづらくなってしまった小中学生の対面・オンラインでの居場所を整備します

- ・港区適応指導教室つばさをリニューアルし、学校の教室に戻るべきという考え方がある“適応指導教室”という名称も改め、子どもたちの個性を尊重した居場所・学びの場を、対面・オンラインを組み合わせたハイブリッドの考え方で整備していきます。
- ・子どもたちが「教室に行くのはしんどいな」と感じたとき、教室以外で学べるように、全ての区立学校の内部にサポートルームを設置し、スクールカウンセラーをはじめとしたサポート体制も整えます。
- ・保護者の皆様がより簡単に悩み相談をしやすく、より効果的な対応をしていくため、オンラインなども活用した専門家による相談の体制を整えるとともに、縦割りを打破して福祉とも連携した相談体制を構築します。
- ・港区に「不登校特例校（学びの多様化学校）」の設置を目指します。

学びの多様化学校とは…… 不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する必要があると認められる場合、文部科学大臣が学校を指定し、特別の教育課程を編成して教育を実施することができる制度を活用した学校のこと。



港区適応指導教室つばさ

令和2～4年度までの区立学校の不登校児童・生徒数



先行事例はある！

八王子市立高尾山学園小学部・中学部：八王子市が設置している不登校児童生徒のための市立小中一貫校。全学年（小4～中3）の総合的な学習において、「講座学習」として教科にとらわれない個々の関心・意欲に応じた体験的な授業内容（スポーツ系・文化系・ものづくり系等）を週4時間設定している。

知っていましたか？

現在、義務教育における長期欠席者は29万人近く（約30人に一人）となっているのはご存知でしょうか。「先生と合わない」「病気を抱えている」「発達特性がある」など、さまざまな理由で学校に通うことが難しい子どもたちがいます。学校に通えないのは家庭の問題や子どもたちの問題ではなく、子どもたちに合った学習環境を整備できていないという行政の問題として捉えるべきです。こうした課題を解決するため、NPO法人カタリバは、メタバースを活用した不登校支援プログラム「room-K」を広島県のSchool「S」や埼玉県戸田市に提供し、不登校の子どもたちがオンラインで学びにつなげることができる環境を提供しています。Room-Kの利用者には、週に数日は学校に行く子、フリースクールや教育支援センターであれば学びを継続できる子、家から一歩も出られない子と様々な子がいるようです（参考：日本財団HP）。

3. 地域と連携し、世界と繋がって、 生き生きとした学びを充実!

港区にある数多くの企業や大使館などと連携して、実社会と結びつけた、子どもたちの人生を豊かにする学びの実現を目指します!

3-① 大使館と連携したホームステイ(まちなか留学)等や英会話アプリの導入により、国際教育を推進します

- 大使館や港区在住の外国人の方々と連携して、大使館の職員の自宅へ港区のすべての子どもたちがホームステイ(まちなか留学)ができる環境を整えます。
- 1人1台端末を活用した「オンライン英会話」のソフトウェアを全ての小中学校に導入します。
▶現状は区立中学3年生の数十名に限られた放課後の任意の取り組みになっています。
- オーストラリア海外派遣事業の定員(区立小学校40名、区立中学校40名)を拡大し、派遣国を増やすことで留学機会を拡充させます。また、対象を港区に暮らすすべての小中学生に拡大します。
- 意欲がある子どもたちのインターナショナルスクールへの通学や海外のサマースクールへの参加を支援する奨学金を整備します。

知っていましたか?

福岡県飯塚市教育委員会は市内の全小中学校にオンライン英会話を導入しましたが、その結果、外国の人に話しかけられたら「英語で受け答える」と回答した割合が倍になったそうです(参考:学研HP)。このように、日常的に英語をツールとして使う環境を整えることで、子どもたちのモチベーションを高めることができます。

答 弁 あ り

9月の決算特別委員会にてまちなか留学の導入について言及・質問させていただきました。担当課長からはまずは希望者選抜型からの導入を目指したいと回答いただきました。オーストラリア派遣事業にとどまらず、外国の文化に触れたい子どもたちの希望に最大限応えられるよう、港区の地域性を活かした取組の拡充を進めます。(区長になったら取り組みます)



HelloWorld株式会社より提供

3-②

企業と連携したプログラミング・デザイン教育の推進により、課題解決能力を育成します

- 港区の企業と連携し、子どもたちがプログラミングやデザインを学びながら課題解決に取り組む実践的なカリキュラムを全ての区立学校に導入することで、実社会で役立つマインドセットやスキルの芽吹きを応援します。
- プログラミングやデザインをさらに深めたい子どもたちに対しては、港区教育委員会が「探究部」を設置し、放課後や休日にさらに踏み込んだ学びを進められる環境を整えることで、子どもたちの起業家精神が開花する土壌を整えます。

知っていましたか?

経済産業省「未来の教室」実証事業では、千代田区麹町中学校でAIドリルが導入され、教科書の学習指導計画の1/2の時間で知識の定着が可能になりました。現在では、東京都でも世田谷区や足立区といった自治体で、全小中学校でのデジタルAIドリルの導入が進んでいます。

実績紹介



私が所属する会派 みなと未来会議 で力を合わせ、六本木中と赤坂中で最先端のプログラミング教育が開始されました。生徒たちが自らウェブサイトを作成する等、自主制作に取り組んでいます。一方で、社会のデジタル化が急速に進む中で、更に高度なデジタル教育の機会を子どもたちに提供していくことも必要です。来年度以降、生成AIを活用して地域問題を解決するサービス開発を学ぶカリキュラムの提供についても検討を進めています。引き続き、区内学校での学びの機会の拡大やカリキュラム内容の充実をめざしていきます。

※デジタル教育の運営会社: ライフイズテック株式会社 <https://life-is-tech.com>

3-③

学校と地域をつなぐコーディネーターの配置や、講師謝金の予算化で、学校負担を減らします

- 学校と地域をつなぐ「学校地域連携コーディネーター」を全ての区立小中学校に配置します。
- 特別非常勤講師制度を積極的に活用し、地域の皆様が学校で教えた際に謝金を支払える環境を整え、持続可能性を高めます。

知っていましたか?

さいたま市では、学校と地域との連携推進の要となる「学校地域連携コーディネーター」を市立全小・中・特別支援学校に配置することで、子どもたちの地域課題解決型学習などの参画を支援しています。(参考:さいたま市HP)



4. 子どもたちと思いっきり向き合える、世界最高の先生方

無駄な業務を効率化することで、子どもたちと向き合える時間を増やすと共に、先生方が自己研鑽を積んだり、お互いに対話できる時間を増やします！

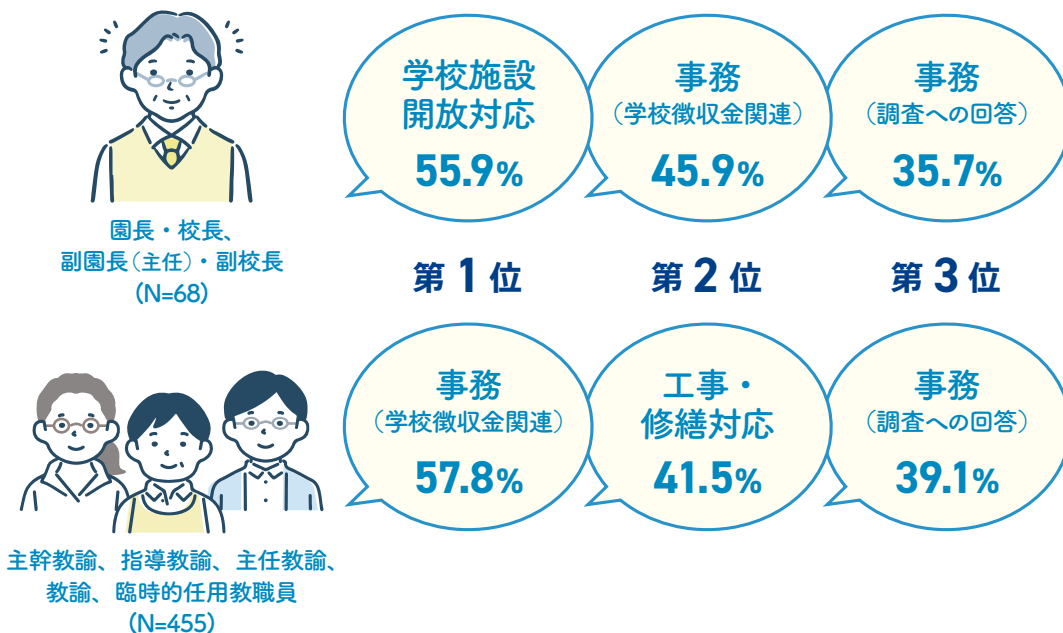
4-① 教育委員会と学校に働き方改革コーディネーターを配置し、ITも活用しながら、業務を見直します

学校における働き方改革では、今までやっていた業務をやめるために慣習や文化を問い直す必要があるため、先生方の同士の対話が何よりも重要です。そこで、業務支援員などを配置して先生方の対話の時間を捻出すると共に、先生方の対話の場づくりを行うコーディネーターを派遣するための予算措置を行い、業務のダンシャリを推進します。また、「教育委員会主催の研修・会議」、「学校が作成する各種計画」、「学校への通知・依頼」等、区として学校の先生方をお願いしている業務を本当に必要なものに精選することも同時に検討していきます。

知っていましたか？

経済産業省「未来の教室」実証事業では、先生方の対話を重視した働き方改革のモデルを、大阪府枚方市の小学校などで実践しています。教職員同士の対話が増えていった結果、「学校全体がエンジンを組んで『頑張るぞ』」というような一体感」に変わり、会議の効率化や精選、ICT活用の推進といった成果に繋がっていったそうです。（参考：経済産業省HP）

〳 港区の教育従事者に聞いた 〳 やらなくても良いと思う業務（職位別）



出典：港区「港区教職員の働き方改革実行計画（平成30(2018)年度～平成32(2020)年度）」より作成

4-②

区費講師、スクールサポートスタッフ、学習支援員などの人員強化で、より手厚い学校運営体制に変革させます！

◆保護者の声

学校の先生方に苦勞が多いことが気がかりです。IT化やペーパーレス化、専門家をより多く配置するなど区からのサポートを学校にいっそう頂くことは出来ないのでしょうか。



小学校にOT*を導入してほしい。発達障害のお子さん（又はそうと思われる子、など）クラスの中で苦しんでいる子（問題児扱いされてしまう子など）の居場所（保健室じゃなくて）を作ってあげてほしい。

※OT（作業療法士）：教育対象年齢の方に対し援助することができる専門職。

出典：港区学校教育推進計画の策定に向けたアンケート調査（自由意見）より一部抜粋

公立学校には多種多様なニーズを持つ学生がいます。私立学校に比べ、経済的に厳しい家庭のお子さんも多くいます。またADHDなど障がいを持つ生徒の比率も増加傾向にあります。こうしたニーズに的確に対応するためには、より手厚い人員体制が求められていると考えます。子どもたちの学びを支える「教員」のチーム体制を徹底的に支えることこそ、今港区の行政に求められている役割だと考えます。人員強化を速やかに実行していきます。



4-③

戦略的に「教育行政のプロ」を採用する等、学校に伴走する教育委員会の機能強化を図ります

テストの点数を伸ばすだけではなく、子どもたちの個性を伸ばすための質の高い教育を実施するには、専門的な知見が必要です。しかし、行政は依然として「ジェネラリスト」を育てることを前提としており、教育行政に専門性をもった人材が体系的に育成されているとは必ずしもいえません。そこで、港区でも「教育行政のプロ」を採用するための仕組みづくりを行うと共に、教育委員会が学校の関係を「指導・監督」から「支援・伴走」へと転換することによって、魅力ある学校づくりを推進していきます。

知っていましたか？

埼玉県戸田市が事務（教育粋）という区分を新設することで、教育学や心理学を学んだ人材あるいは教育に関する民間企業での経験のある人材を「教育行政のプロ」として採用し、エビデンスに基づく教育政策を展開しています。（参考リンク：埼玉県戸田市 HP）